

# 事業再生のみちしるべ

## Vol.3 自社の実態を把握できていますか

問題点を洗い出すために…

以前に私たちがご相談をお受けした会社(X社)の事例です。社長は、「売上を増やし会社を大きくすること」が最大の関心ごとで、積極的な営業活動によりX社は急成長しました。X社は増収増益を継続していましたが、同時に運転資金が必要で借入金も相応に増加しました。そんな時に、突然一部の金融機関から融資を拒絶されます。すると他の金融機関も同様に難色を示すようになり、資金繰りに支障が生じる結果となりました。

私たちが調査を実施したところ、社長が売上拡大のみを重視した結果、管理面がおろそかになり、売掛金の回収不能や不良在庫が多く発生していたこと、赤字決算を回避するために、経理担当者が不正経理を行っていたことが判明しました。X社は実質的に赤字であり、債務超過となっていました。しかし、実態は決算書には反映されていませんでした。しかし、金融機関は異常に気付いていたのです。

問題の本質は、社長が管理面を軽視したことにあります。社長はその後、利益重視路線に転換することを宣言し、内部管理体制も構築しました。具体的な改善方針と行動計画を示した経営改善計画書を全金融機関に提出し、同意形成に努めた結果、全面的な支援を得て見事に経営を立て直されました。

これは特殊な事例ではなく、誰にでも起こり得ることです。経営者が自分の会社を客観的な視点で分析することは非常に難しく、時には外部の声を聞いてみることも重要です。



ビズリンク・アドバイザリー株式会社  
取締役パートナー(税理士) 中井 功